



2019年3月期 決算説明会

2019年(令和元年)5月22日

ネットレン
高周波熱錬株式会社



I. 2019年3月期 連結決算の概要

II. 経営実績の推移

III. 第14次中期経営計画の状況

IV. 新技術・新商品・新規事業の迅速な開発と市場投入

I. 2019年3月期 連結決算の概要

1. 2019年3月期 連結決算の概要

(単位:百万円)

	2018年 3月期	2019年 3月期	増 減	増減率 (%)
売 上 高	48,980	53,015	4,035	8.2
営 業 利 益	3,656	3,569	△87	△2.4
経 常 利 益	4,165	4,080	△84	△2.0
親会社株主に帰属する 当 期 純 利 益	3,003	950	△2,052	△68.3
R O A	5.3	5.0	△0.3	-
R O E	5.1	1.6	△3.5	-

注) 親会社株主に帰属する当期純利益減少の主な理由は、
固定資産の減損損失(1,950百万円)の計上によるものです。

2. 比較連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	期別	2018年 3月期	2019年 3月期	増減	増減率(%)
売上高		48,980	53,015	4,035	8.2
売上原価		37,799	41,756	3,956	10.4
売上総利益		11,180	11,259	78	0.7
販売費及び一般管理費		7,524	7,690	166	2.2
営業利益		3,656	3,569	△87	△2.4
営業外収益		570	595	25	4.4
営業外費用		61	84	22	36.1
経常利益		4,165	4,080	△84	△2.0
特別利益		2,253	432	△1,821	△80.8
特別損失		1,772	2,496	724	40.8
税金等調整前当期純利益		4,645	2,016	△2,629	△56.6
法人税、住民税及び事業税		1,078	876	△202	△18.7
法人税等調整額		88	△367	△455	—
当期純利益		3,479	1,507	△1,972	△56.6
(内訳)					
親会社株主に帰属する当期純利益		3,003	950	△2,052	△68.3
非支配株主に帰属する当期純利益		475	556	80	16.9

3. 連結營業利益増減内容

(単位:百万円)



売上高要因	1,553
変動費要因	△281
固定費要因	△1,359
合計	△87

4. 固定資産の減損損失の発生と今後の対策 -1

当社および海外連結子会社において、**1,950百万円**の減損損失を計上しました。

(1) 当社の固定資産の減損損失

熱処理受託加工を行う茨城工場と岡山工場は、主要顧客の増産要請への対応を実施。

設備投資や人財確保に努めたが、人件費等が想定以上に増加し、収益性が低下して、**1,589百万円**を計上。

(2) 海外連結子会社の固定資産の減損損失

熱処理受託加工と装置販売を行う PT.ネツレン・インドネシアとネツレン・メキシコ,S.A.de C.V. は受注活動に努めたが、販売が伸び悩み、収益性が低下して、**361百万円**を計上。

5. 固定資産の減損損失の発生と今後の対策 -2

各拠点での金額および今後の対策は以下の通りです。 (単位:百万円)

名 称	損失額	発 生 理 由	今後の対策
茨 城 工 場	448	<ul style="list-style-type: none"> ・ 客先都合による、寒川工場との統合遅延 ・ 人件費の高騰 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 統合完了 ・ 生産性の向上
岡 山 工 場	1,141	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予想外品種の増産による人件費の高騰 	<ul style="list-style-type: none"> ・ モノづくり体質強化と稼働率の向上 ・ 設備自動化推進による人件費削減
ネットレン・メキシコ S.A.de C.V	314	<ul style="list-style-type: none"> ・ 米国保護主義政策の影響による受注量減少 ・ 日系自動車関連顧客への拡販遅れ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本年後半から予定されている、各種自動車部品の取り込み ・ 人財育成による原価低減
P T ネットレン ・インドネシア	46	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大型受注案件の凍結、延期による売上未達 ・ 建機業界回復による顧客設備メンテナンス延期での売上減少 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新規受託加工のスムーズな立ち上げ ・ メンテナンス部門の受注拡大
	1,950		

6. セグメント情報(連結売上高)

(単位:百万円)

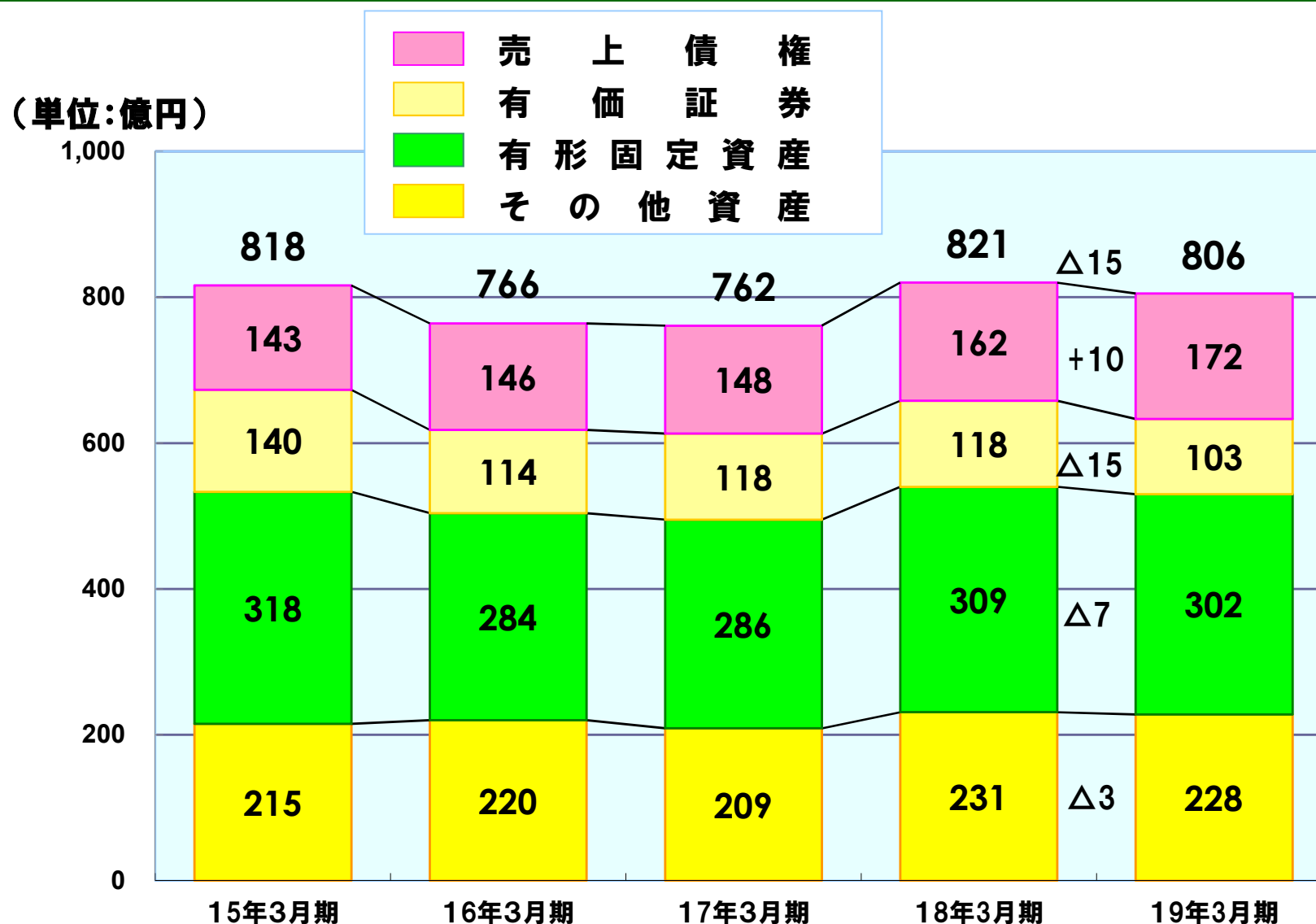
事業区分	主な製品	2018年 3月期	2019年 3月期	増 減	増減率 (%)
製品事業部 関連事業	PC鋼棒 異形PC鋼棒 高強度せん断補強筋 高強度ばね鋼線	21,282	21,552	269	1.3
I H事業部 関連事業	熱処理受託加工 誘導加熱装置 自動車部品 建設機械部品	27,569	31,332	3,763	13.7
そ の 他	動産ならびに不動産に 係る賃貸事業および 上記以外の事業	128	130	2	2.0
合 計		48,980	53,015	4,035	8.2

7. セグメント情報(連結営業利益)

(単位:百万円)

事業区分	主な製品	2018年 3月期	2019年 3月期	増 減	増減率 (%)
製品事業部 関連事業	PC鋼棒 異形PC鋼棒 高強度せん断補強筋 高強度ばね鋼線	1,562	1,446	△116	△7.4
I H 事業部 関連事業	熱処理受託加工 誘導加熱装置 自動車部品 建設機械部品	2,034	2,065	30	1.5
そ の 他	動産ならびに不動産に 係る賃貸事業および 上記以外の事業	59	57	△1	△2.9
合 計		3,656	3,569	△87	△2.4

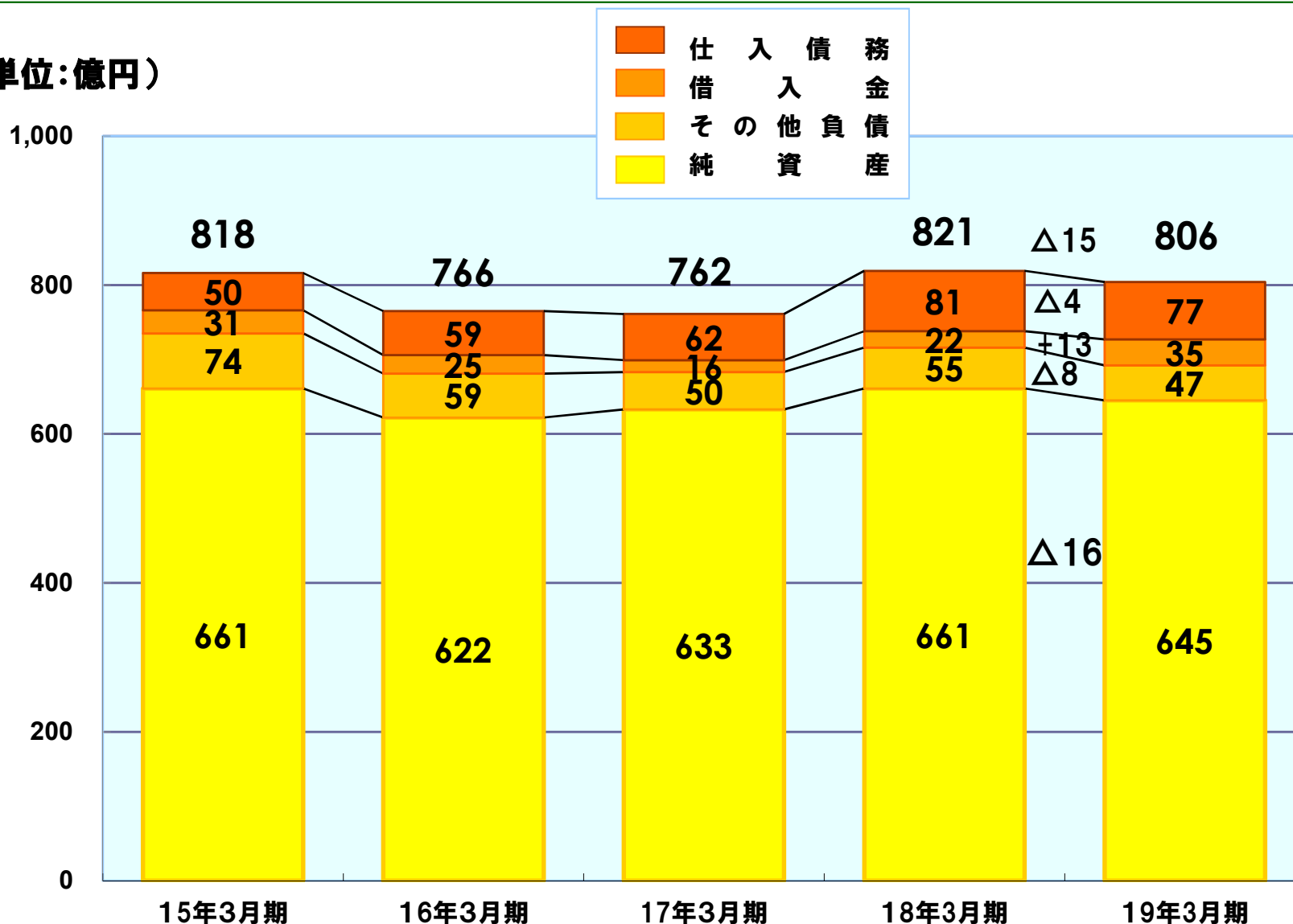
8. 2019年3月期 資産残高の推移(連結)



※「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等に伴い、2018年3月期に係る数値については、当該会計基準を遡って適用した後の数値となっております。

9. 2019年3月期 負債・純資産残高の推移(連結)

(単位:億円)



※「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等に伴い、2018年3月期に係る数値については、当該会計基準を遡って適用した後の数値となっております。

10. 2019年3月期 キャッシュ・フロー(連結)



(単位:百万円)

科 目	2018年 3月期	2019年 3月期	対前年同期比 増 減
税金等調整前当期純利益	4,645	2,016	△2,629
減価償却費	2,897	3,267	370
減損損失	1,134	1,950	815
売上債権の増減	△1,067	△1,212	△144
仕入債務の増減	1,764	△281	△2,046
その他	△2,891	△1,116	1,775
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,483	4,622	△1,860
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,880	△5,510	369
フリーキャッシュ・フロー	603	△887	△1,490
借入金	601	1,316	715
自己株式の取得	△683	△179	503
配当金の支払額	△1,200	△943	257
その他	△87	△324	△236
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,370	△130	1,239
キャッシュ・フロー期末残高	12,507	11,286	△1,220

11. 2019年3月期 キャッシュ・フロー関連指標(連結)



(単位:%)

	2015年 3月期	2016年 3月期	2017年 3月期	2018年 3月期	2019年 3月期
① 自己資本比率	73.5	73.6	75.5	72.8	72.2
② 時価ベースの自己資本比率	46.4	42.5	49.4	54.4	45.1
③ キャッシュ・フロー対有利子負債比率	0.7	0.5	0.3	0.3	0.8
④ インタレスト・カバレッジ・レシオ	68.2	80.5	126.7	170.6	109.7

※各指標の算出方法

- | | |
|---------------------|---------------------------------|
| ① 自己資本比率 | : 自己資本 / 総資産 |
| ② 時価ベースの自己資本比率 | : 株式時価総額 (株価終値 × 発行済株式総数) / 総資産 |
| ③ キャッシュ・フロー対有利子負債比率 | : 有利子負債 / 営業キャッシュ・フロー |
| ④ インタレスト・カバレッジ・レシオ | : 営業キャッシュ・フロー / 利払い金額 |

12. 連結設備投資額

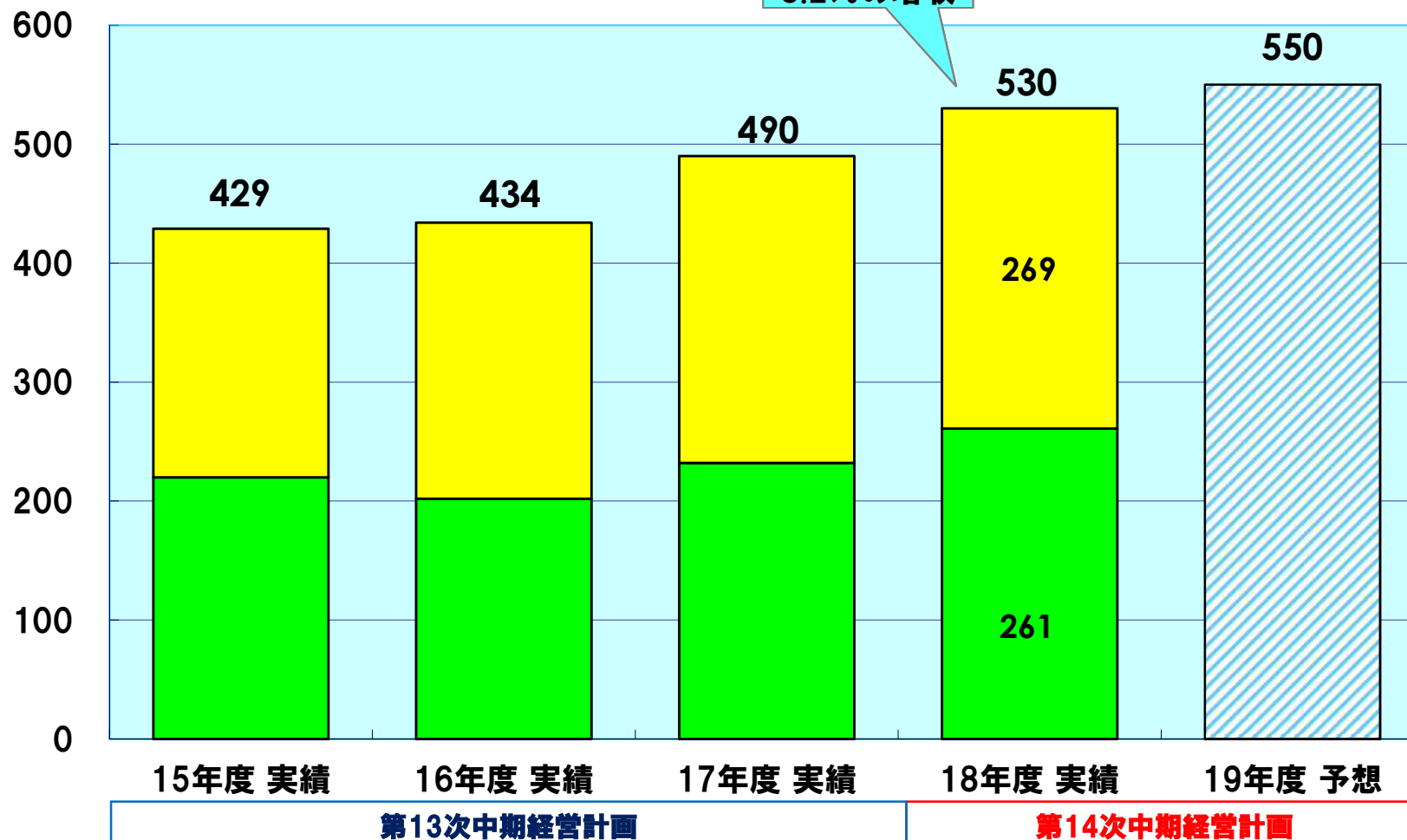
(単位:百万円)

	2017年 3月期	2018年 3月期	2019年 3月期	2020年 3月期 (予想)
設備投資額	3,167	4,766	4,872	5,600
減価償却費	2,739	2,897	3,267	3,300

II. 経営実績の推移

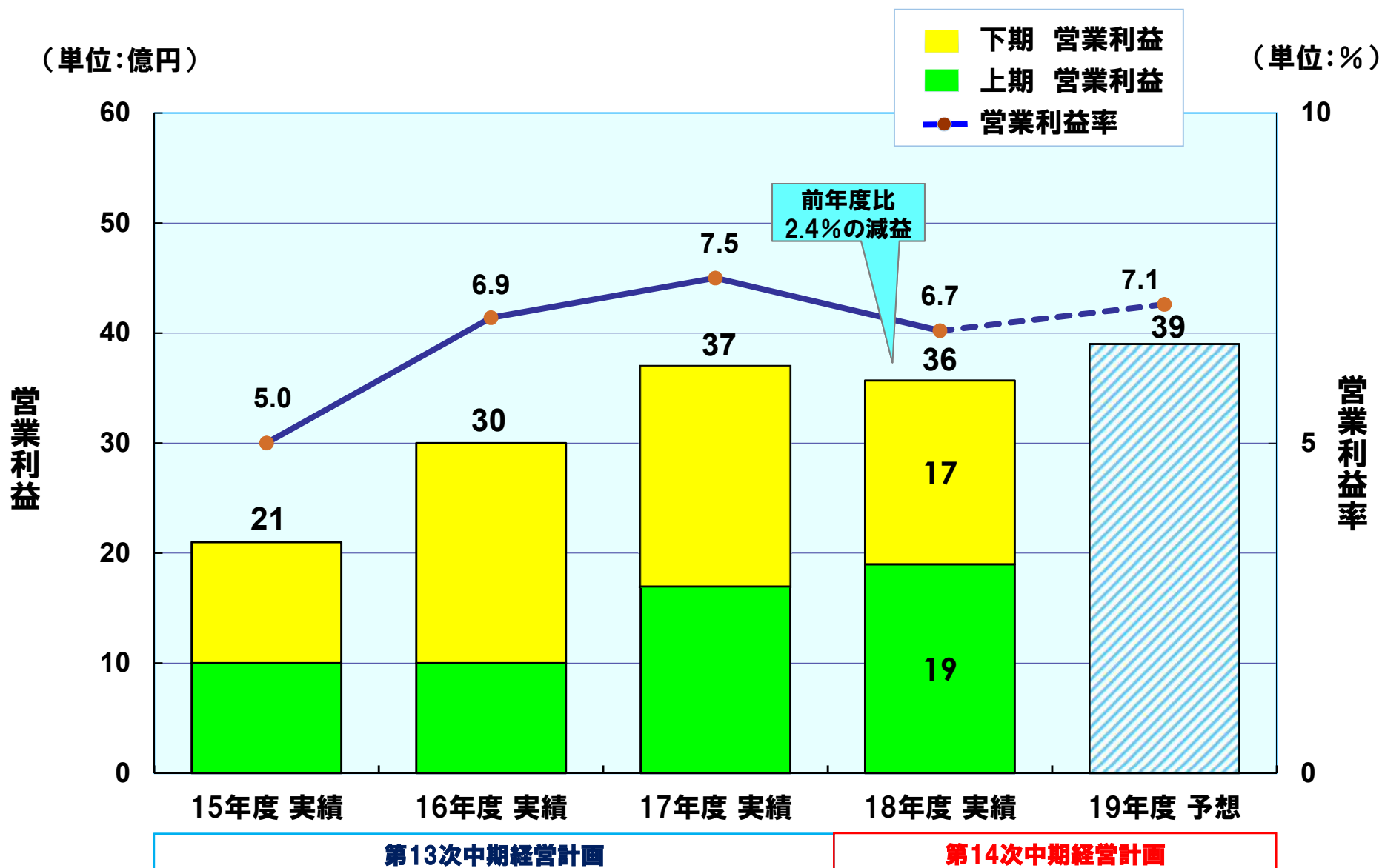
13. 連結売上高の推移

(単位:億円)



※換算レート
 ・18年度 1中国元=16.16円、1USDドル=111.00円
 ・19年度 1中国元=16.00円、1USDドル=110.00円

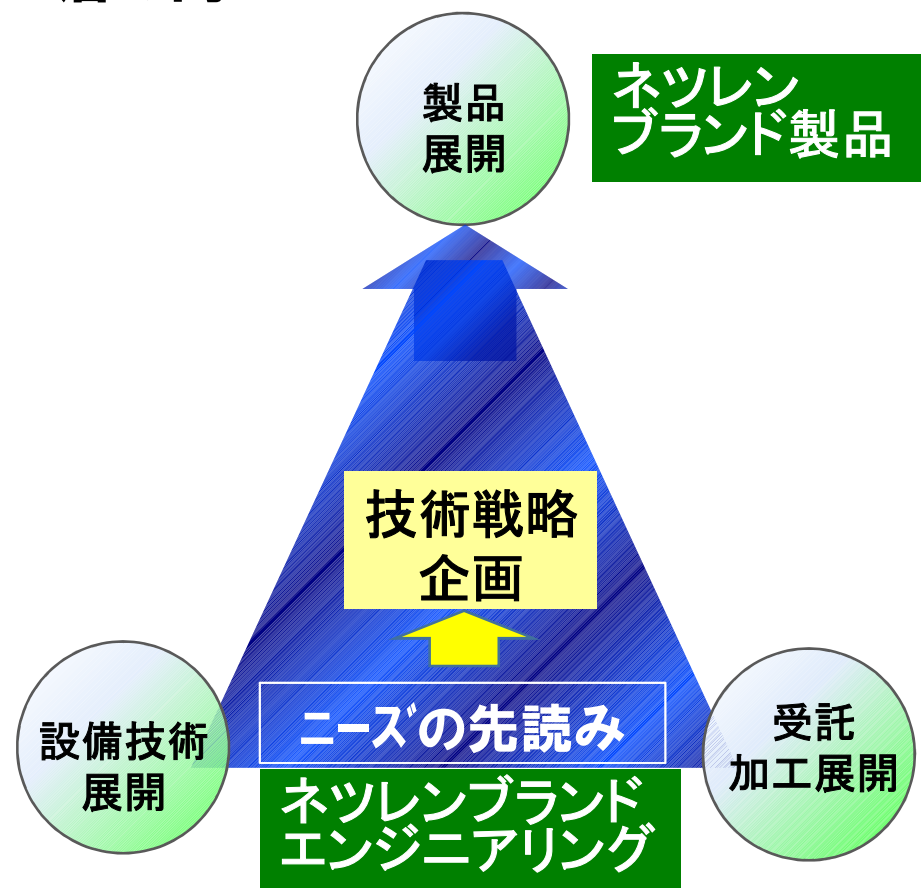
14. 営業利益・営業利益率の推移



15. セグメントの変更(2019年4月)

(目的)

一貫加工であるネットブランド製品の
事業効率化とお客様満足度の
一層の向上



(従来)

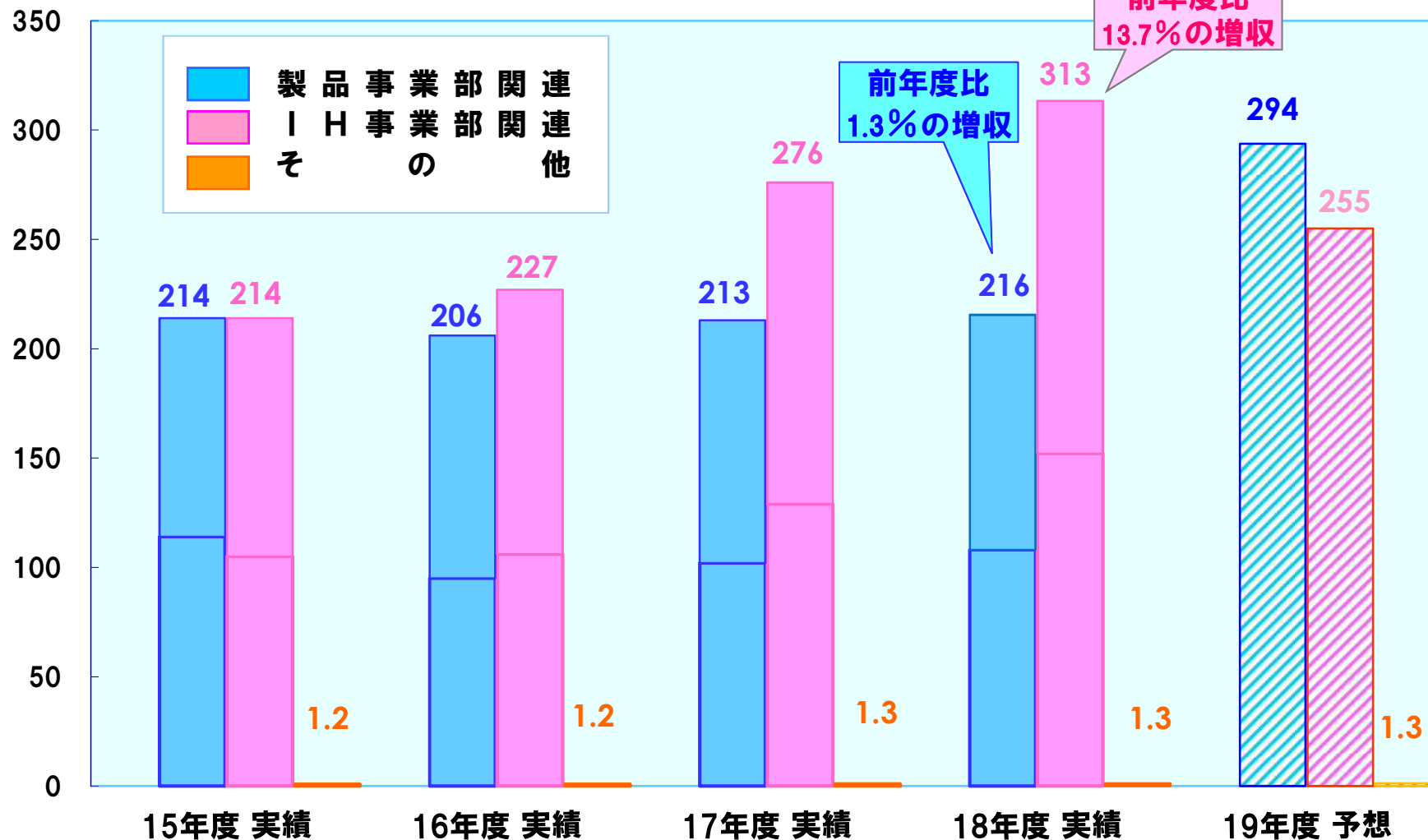
事業区分	主な製品
製品事業部 関連事業	PC鋼棒 異形PC鋼棒 フープ筋 高強度ばね鋼線
I H 事業部 関連事業	熱処理受託加工 誘導加熱装置 中空ラックバー 建機用旋回輪

(変更後)

製品事業部 関連事業	PC鋼棒 異形PC鋼棒 フープ筋 高強度ばね鋼線 中空ラックバー 建機用旋回輪
I H 事業部 関連事業	熱処理受託加工 誘導加熱装置

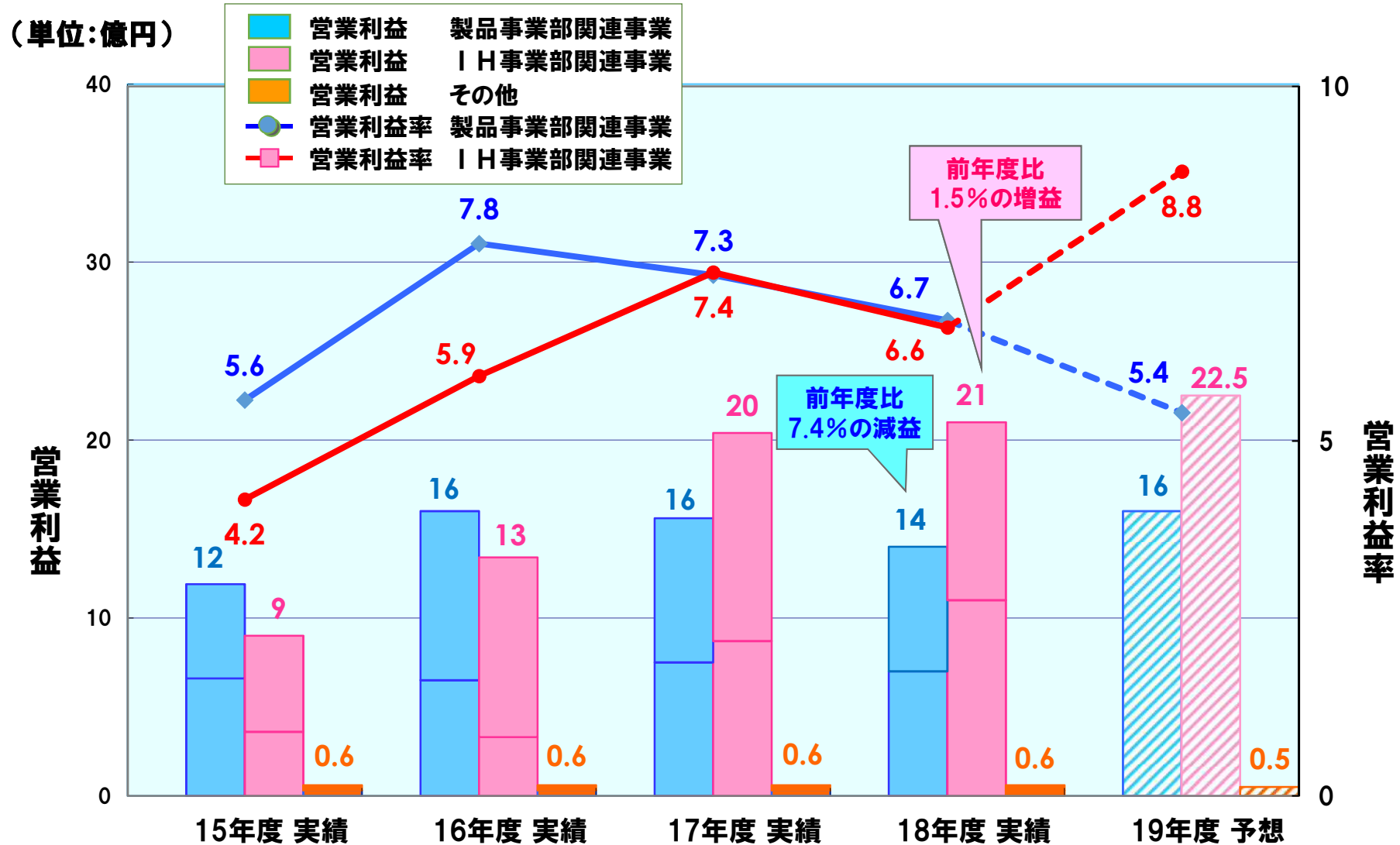
16. セグメント情報 (連結売上高)

(単位:億円)



注) 18年度実績までは旧セグメント区分、19年度予想は新セグメント区分にて表示。

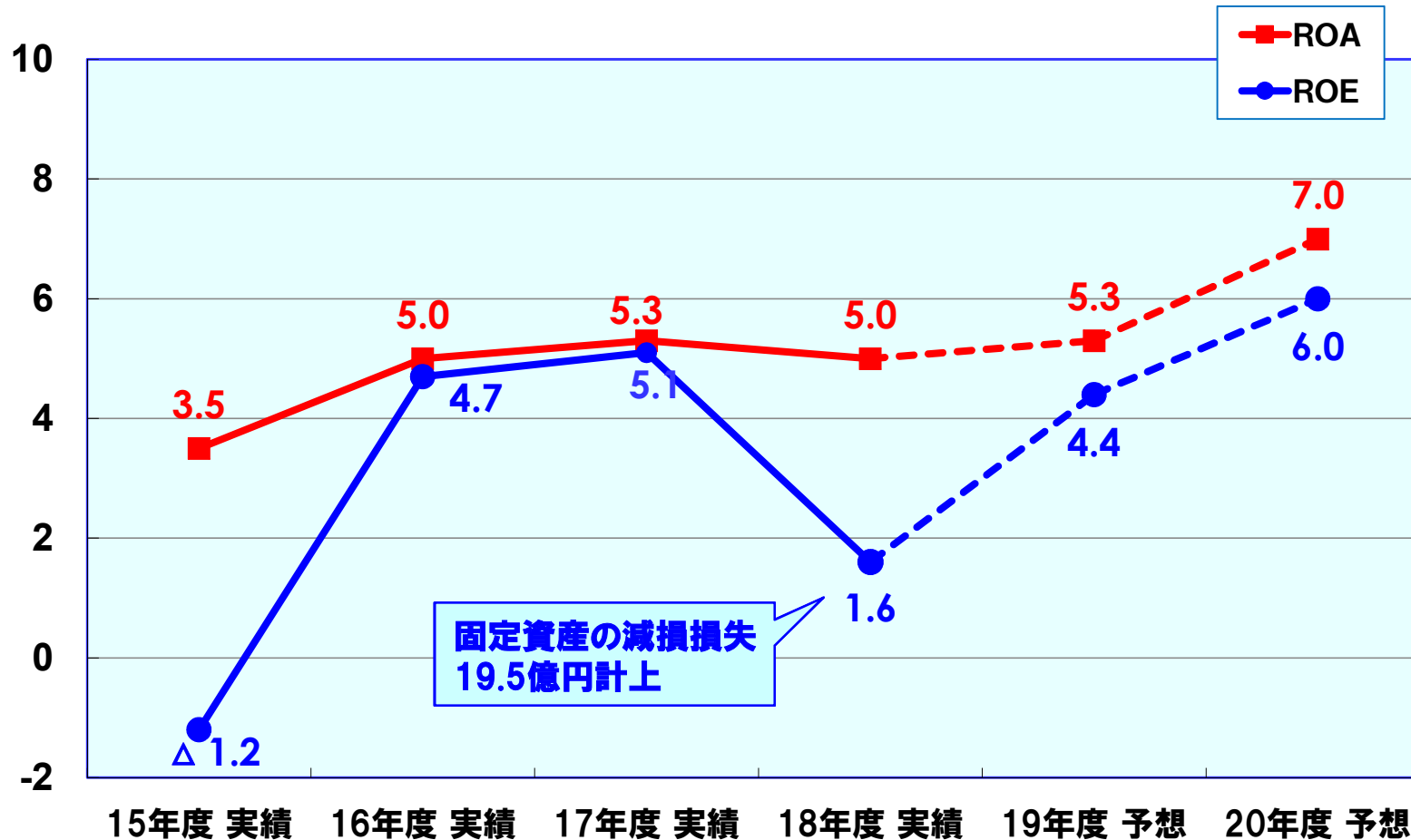
17. セグメント情報(営業利益・営業利益率)



注) 18年度実績までは旧セグメント区分、19年度予想は新セグメント区分にて表示。

18. ROA・ROE の推移

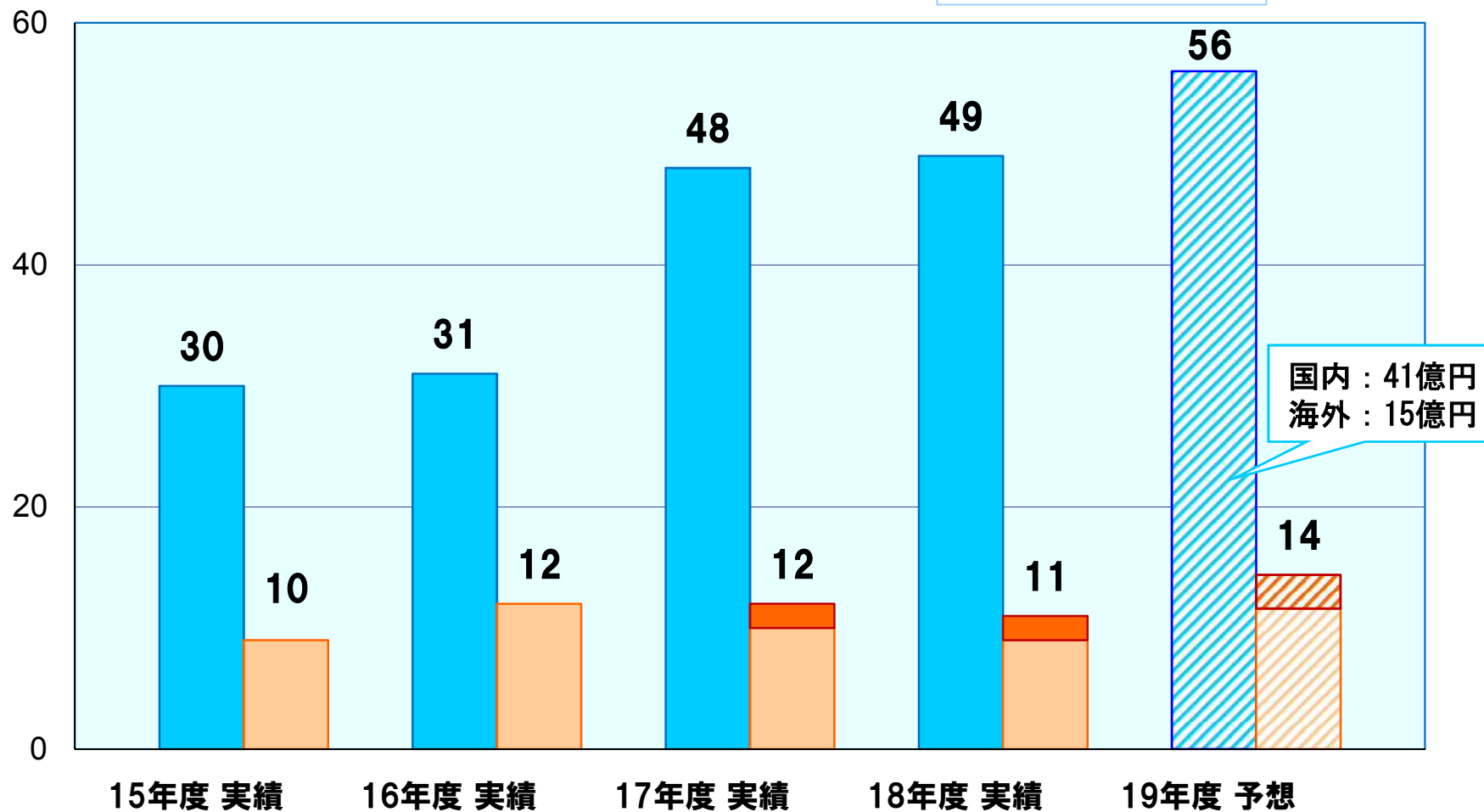
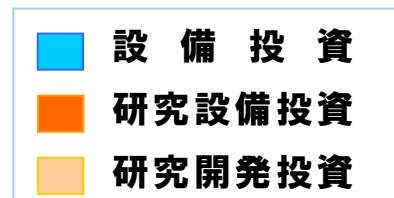
(単位:%)



※ 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等に伴い、2017年度ROAについては、当該会計基準を遡って適用した後の数値となっております。

19. 設備投資・研究開発投資の推移

(単位:億円)



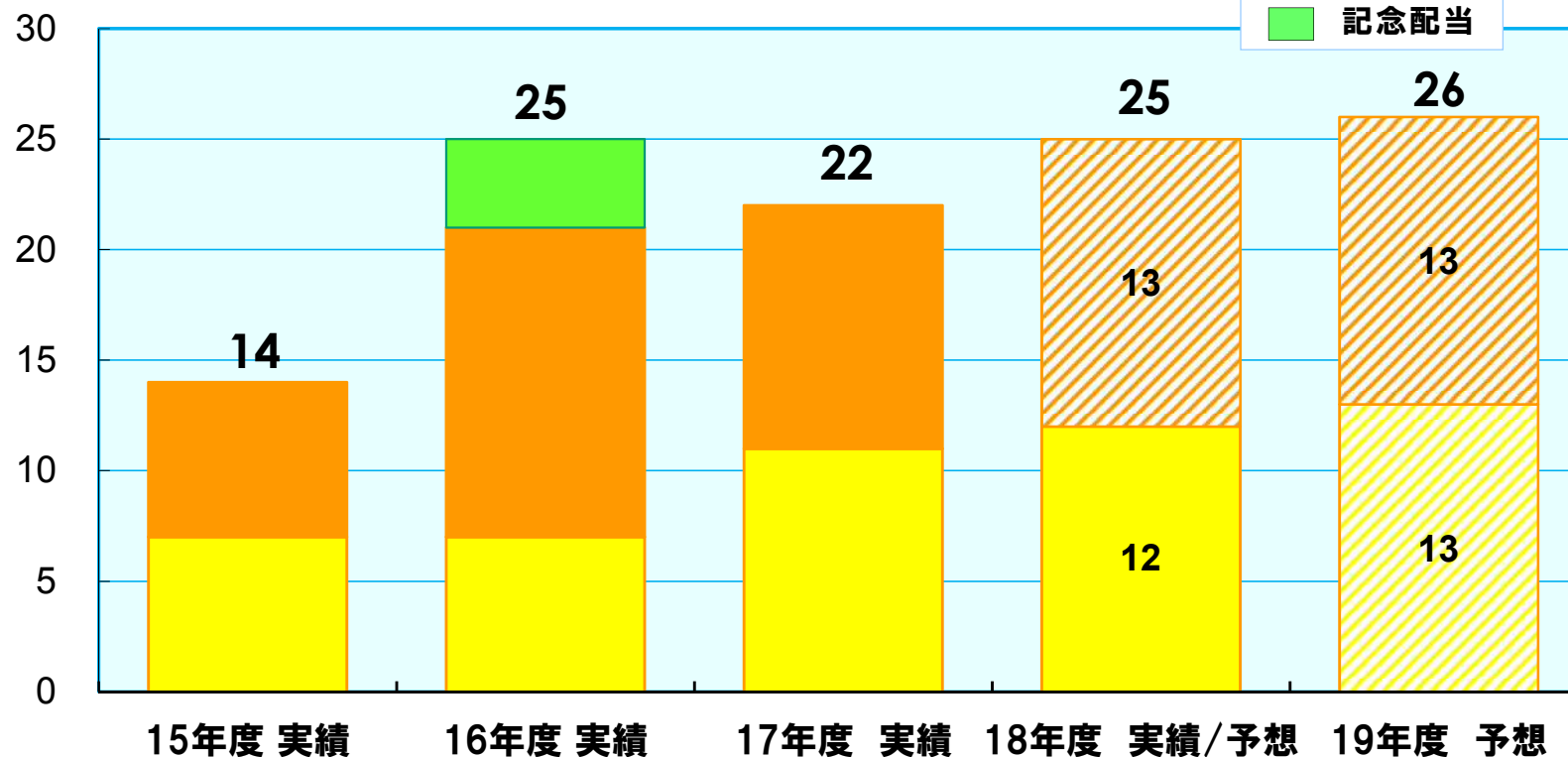
20. 配当政策の推移

基本方針

「安定した配当」を基本としており、当面、1株当たり年10円を下限とし、「業績に応じた利益配分」については、連結配当性向40%以上を目処としています。

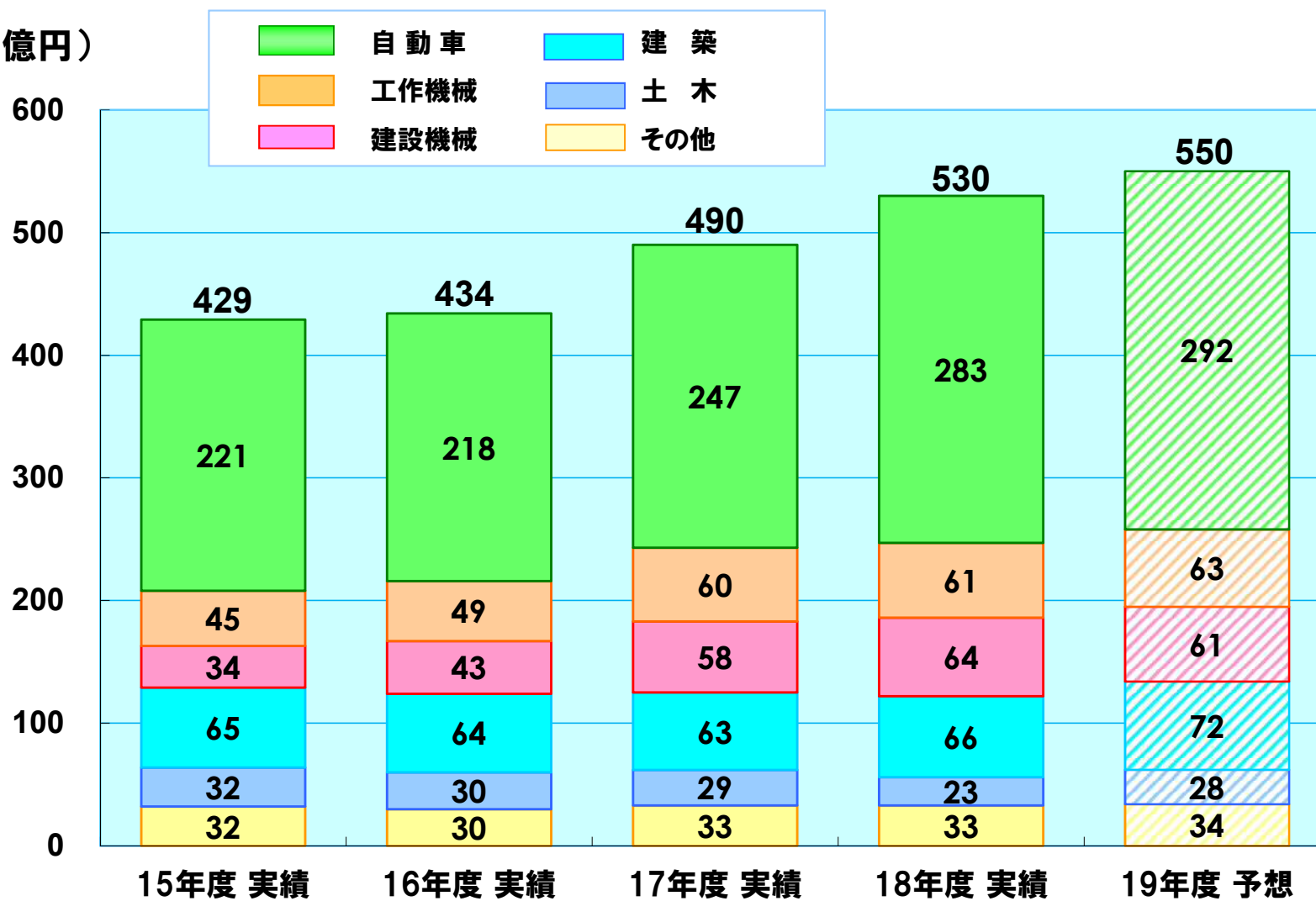
〈18年度より連結配当性向40%以上に変更〉

(単位:円)



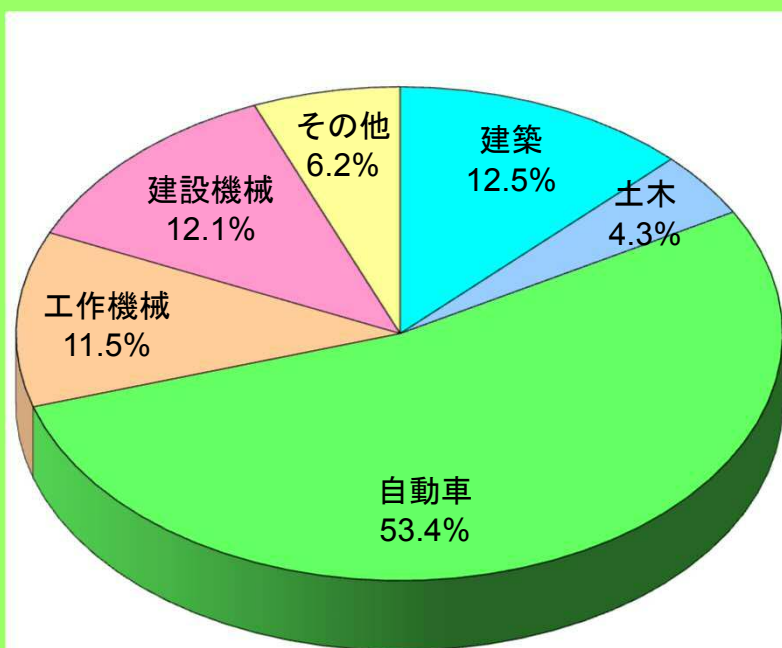
21. 業界別売上高の推移

(単位:億円)

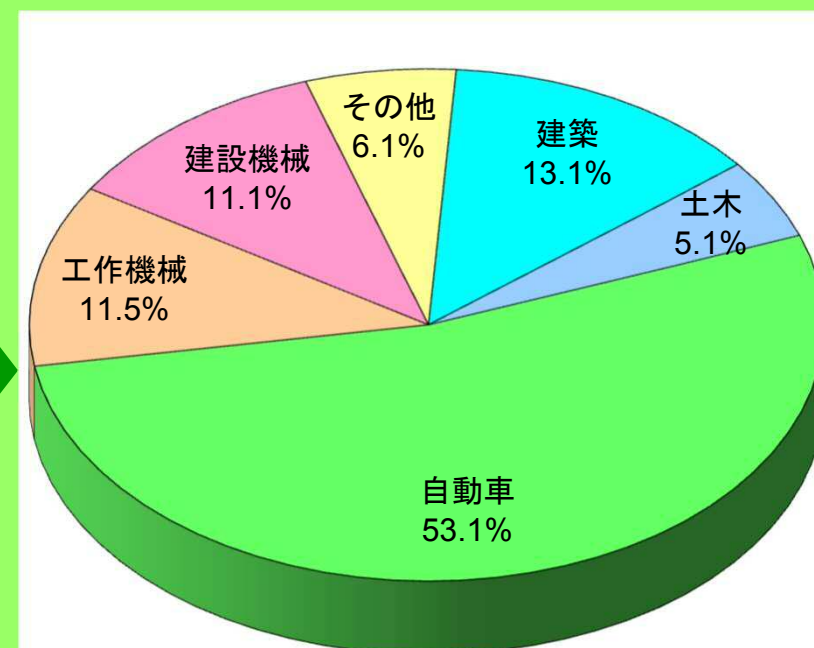


22. 業界別売上高比率

2018年度 実績



2019年度 予想



III. 第14次中期経営計画の状況

23. 第14次中期経営計画の状況

スローガン **「Accomplish V-20」**

【趣旨】 NETUREN VISION 2020 の総仕上げ、未来永劫進化するネツレンを実現するために、総力を結集して14次中計を完遂する覚悟を表現

**第1の柱:新技術・新商品・新規事業の迅速な開発と市場投入
第2の柱:現在と未来を担うグローバル人財の確保と育成
第3の柱:安全・品質・CSR活動のグローバル体制の構築**

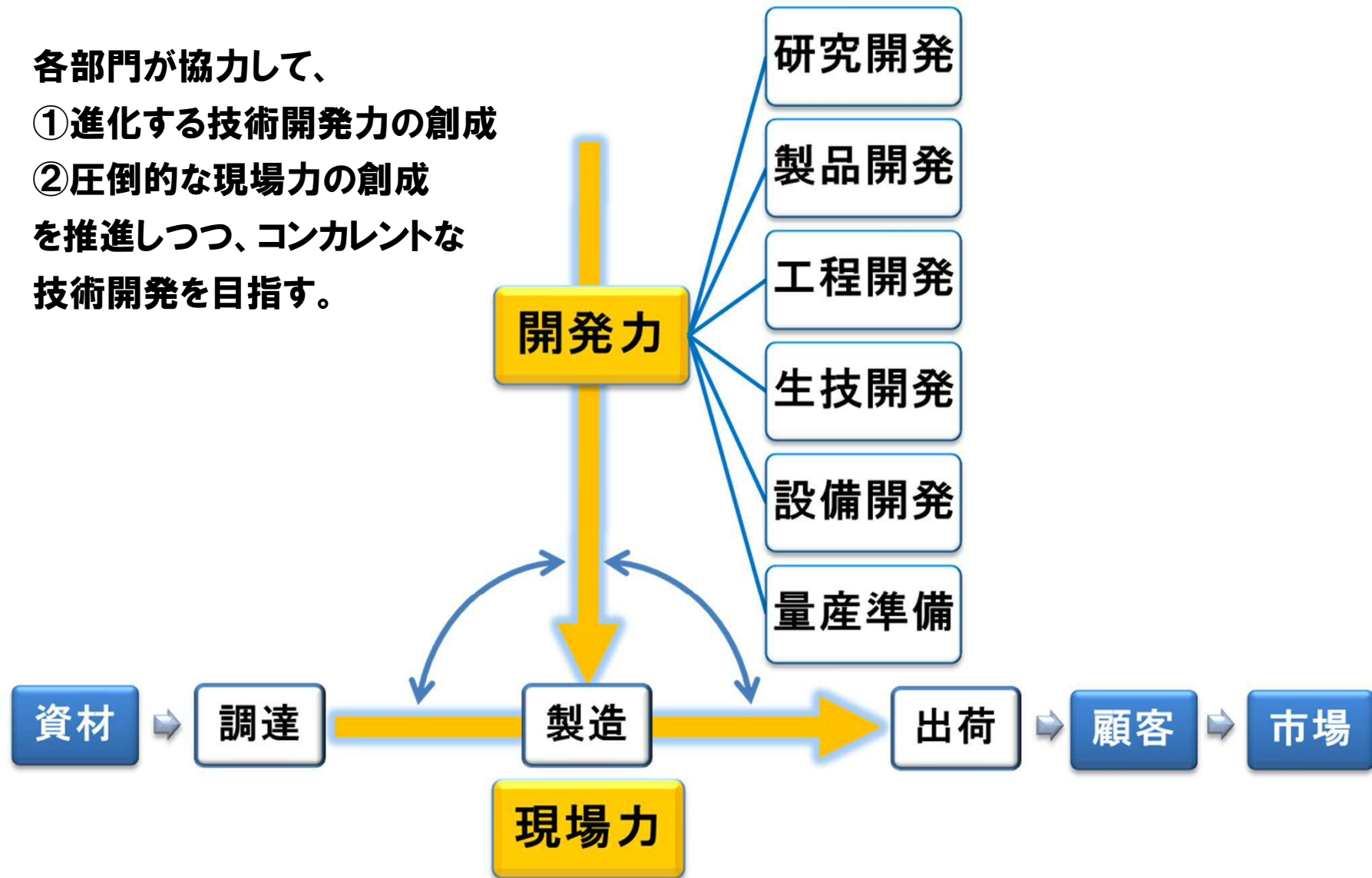
【連結目標】

	2019年3月期 実績	2021年3月期 目標
売上高	530億円	570億円
営業利益	36億円	45億円
営業利益率	6.7%	7.9%
ROA(総資産経常利益率)	5.0%	7%以上
ROE(株主資本純利益率)	1.6%	6%以上

24. 新技術・新商品・新規事業の開発と市場投入

各部門が協力して、

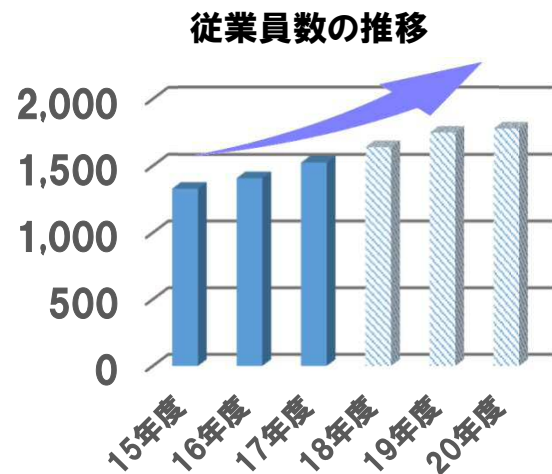
- ①進化する技術開発力の創成
 - ②圧倒的な現場力の創成
- を推進しつつ、コンカレントな技術開発を目指す。



25. グローバル人財の確保と育成

人財育成システムを構築し、全社視点から多角的かつ柔軟な人財の確保と育成を確実に進めています。

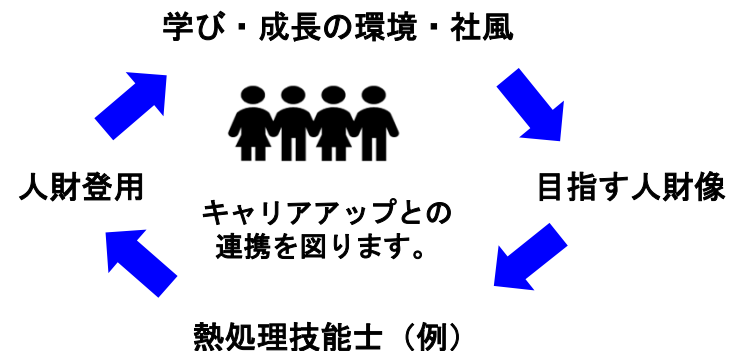
【人員計画】



将来の「**熱処理・加工技術を支える人財**」を育てるため積極的に人財確保を行います。

【育成の取組み】

- 人財育成システムを構築し、技術・技能および営業力の向上を目指し、階層別に育成中。
- 2019年4月、人財育成センターを設立し“進化”する人づくり活動をスタート。



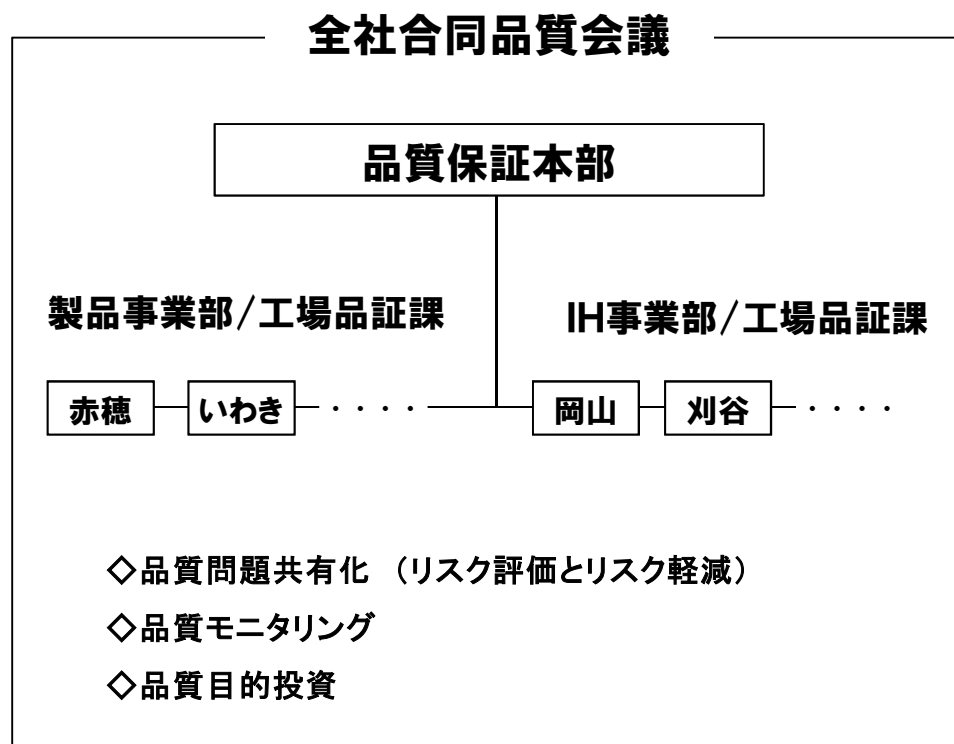
26. 安全・品質・CSR活動のグローバル体制の構築

安全: ネットレン労働安全衛生マネジメントシステムの構築

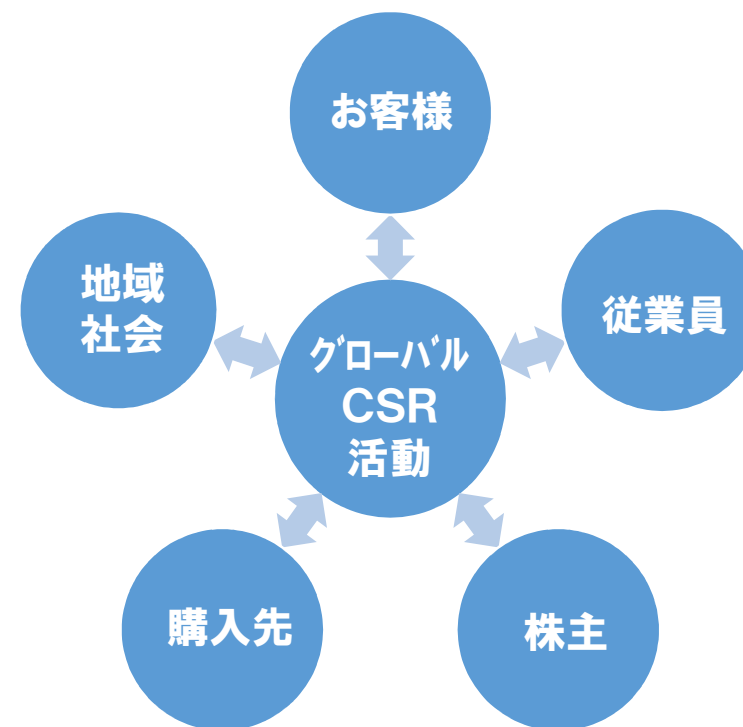
品質: 異常の見える化、全社連携強化、最新鋭の設備導入によるシステムの構築

CSR: 企業活動を通じて社会および環境に対して貢献

【品質の取組み】



【CSRの取組み】



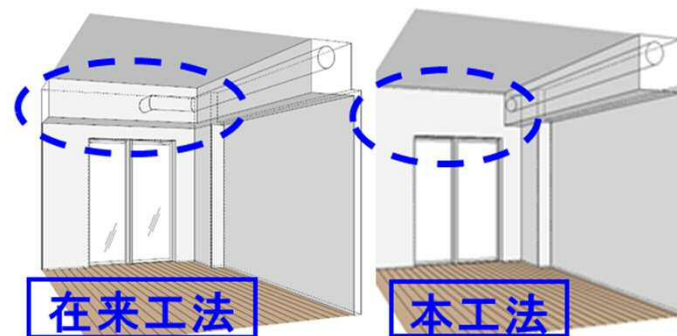
IV. 新技術・新商品・新規事業の迅速な 開発と市場投入

27. 新技術・新商品・新規事業の開発と市場投入-1

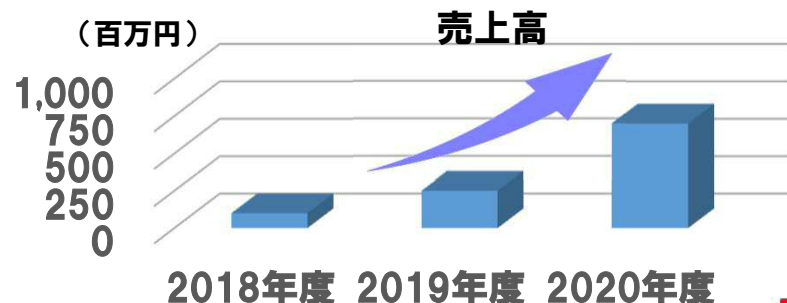
新商品：ダブルスターク

ネットレンのコア技術である誘導加熱による部分加熱を活用した製品。鉄筋量を20-30%低減し、施工性向上と快適居住空間を実現可能。

**2018年度“超”モノづくり部品大賞・生活関連部品賞
(モノづくり日本会議・日刊工業新聞社 主催)を受賞**



【売上高予想】



【採用済み物件】

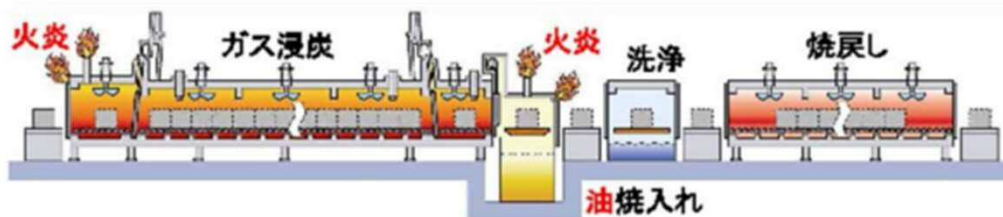
神奈川県海老名市 高層マンション
(2018年12月に納入完了)

【今後の使用予定物件】

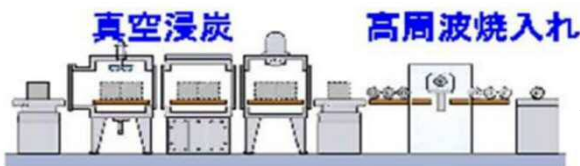
- 1) 千葉県鴨川市 高層マンション
- 2) 東京都江東区有明 高層マンション
- 3) 神奈川県海老名市 高層マンション2期工事

新規事業: マイルド浸炭技術の事業拡大

従来浸炭

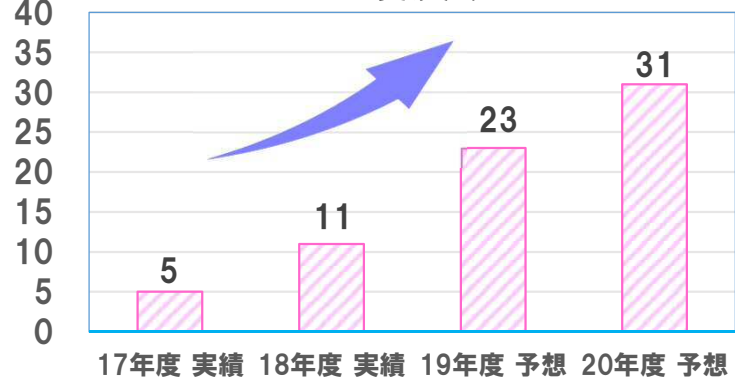


マイルド浸炭ライン

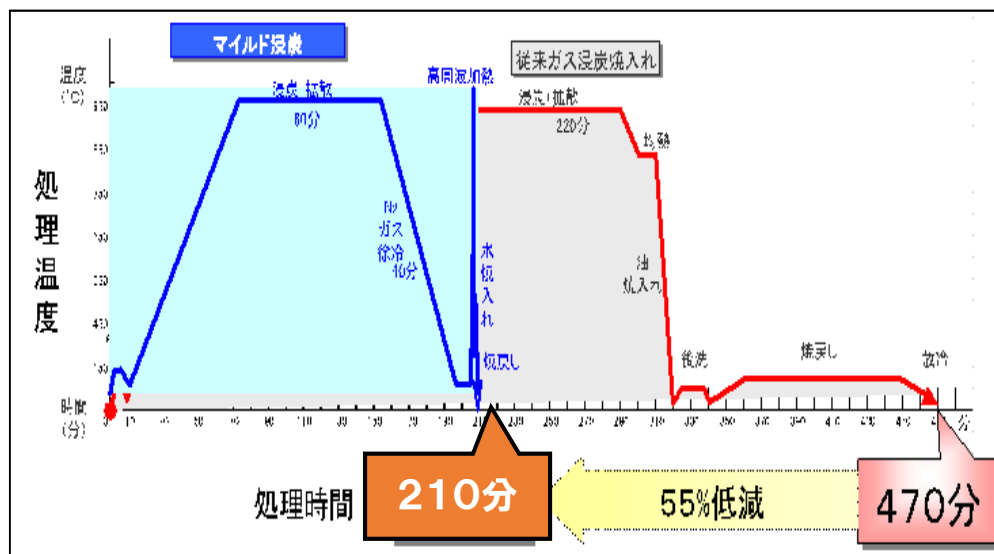


- CO₂排出40%減
- 処理時間55%減
- ライン長さ45%減
- 低変形化の実現 etc.

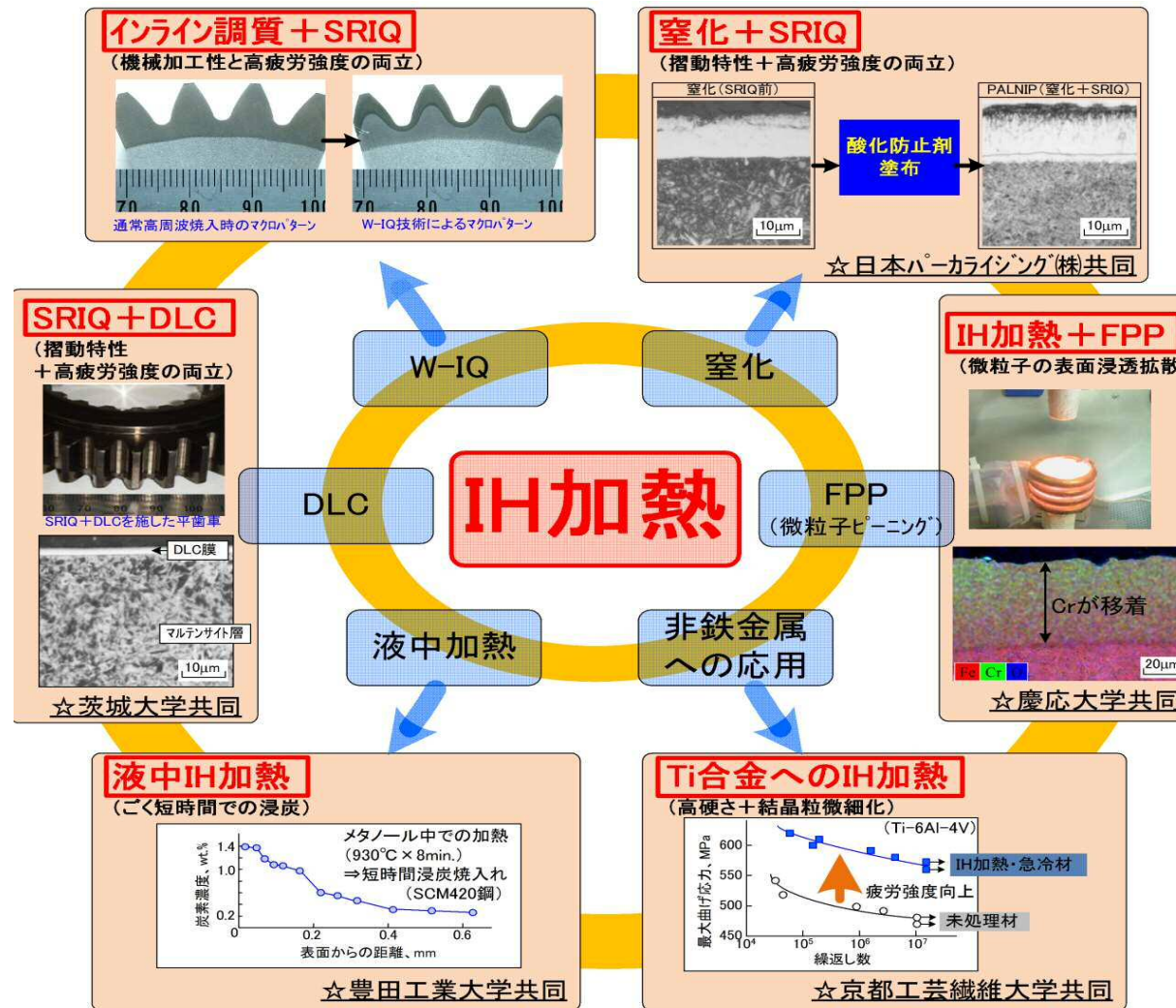
(単位:億円) マイルド浸炭 売上高



- ① アイシン・エィ・ダブリュ殿の開示ご承認済
- ② 2017年から本格的な事業展開を開始



新技術：複合熱処理・表面改質技術の研究・開発



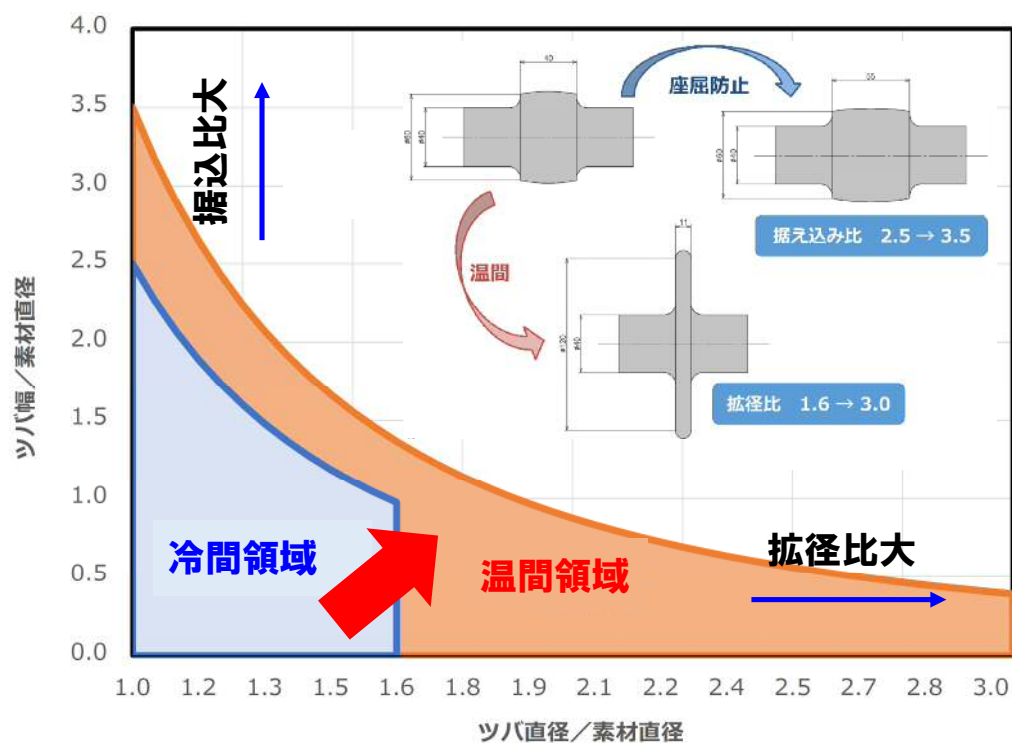
IH熱処理技術の今後の研究すべき方向性



研究機関と共同で、IH熱処理技術を組み合わせた表面改質技術の更なる進化

新技術：温間軸肥大技術の開発

従来の軸肥大[®]にIH加熱による温間成形を開発し、大幅なツバの拡大に成功。コンパクトな自動化ラインの構築により、大幅にサイクルタイムを短縮。



肥大例 (拡張比: 3倍)



31. 革新的生産性向上への取組み

フープ筋：いわき工場生産性2倍の活動

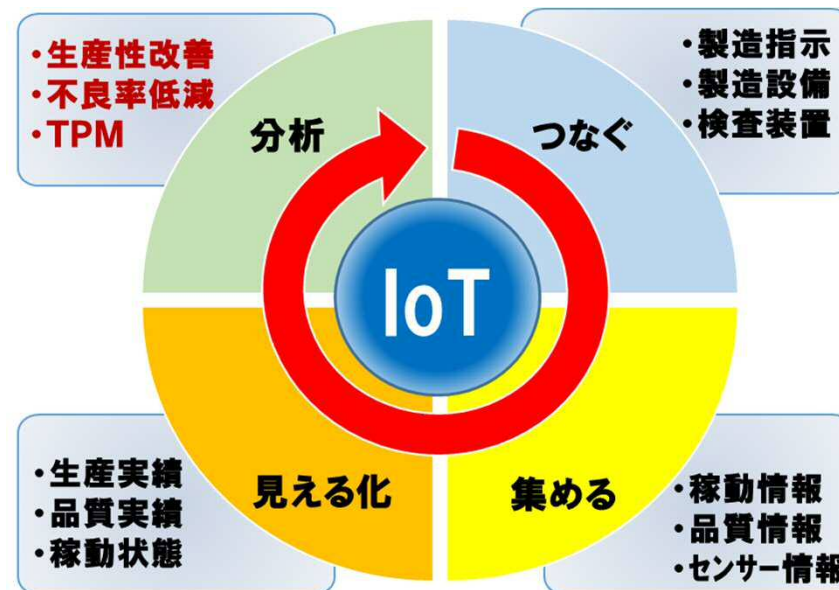
- ・設備の自動化
- ・設備レイアウトの最適化
- ・設備統合・複合化
- ・IoTの導入



労務工数1/2
=生産性2倍へ



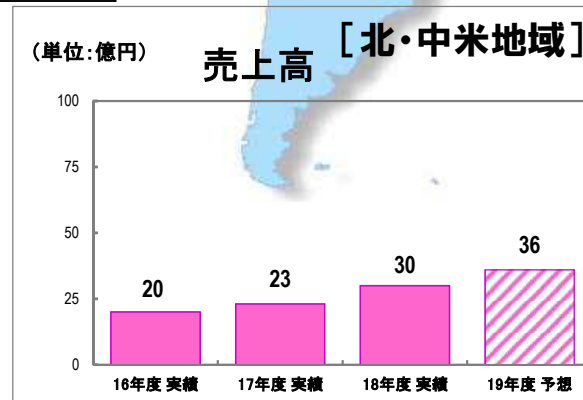
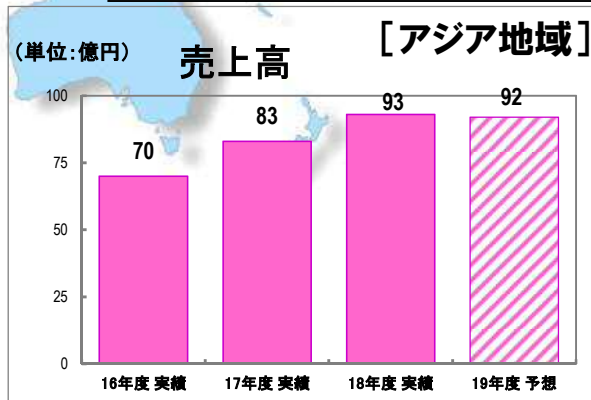
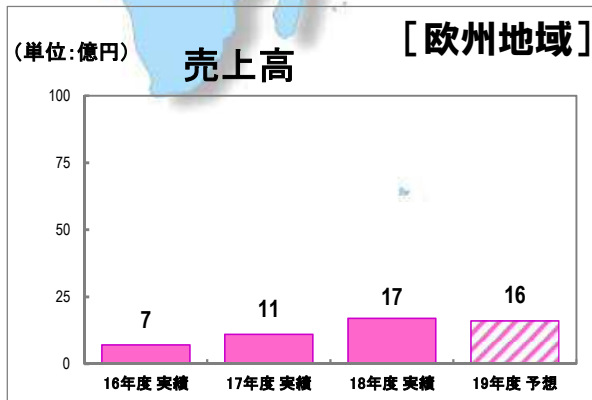
設備の自動化(ロボットの導入)



32. グローバル事業の展開-1

“海外事業展開の状況”

6カ国 10社（子会社）



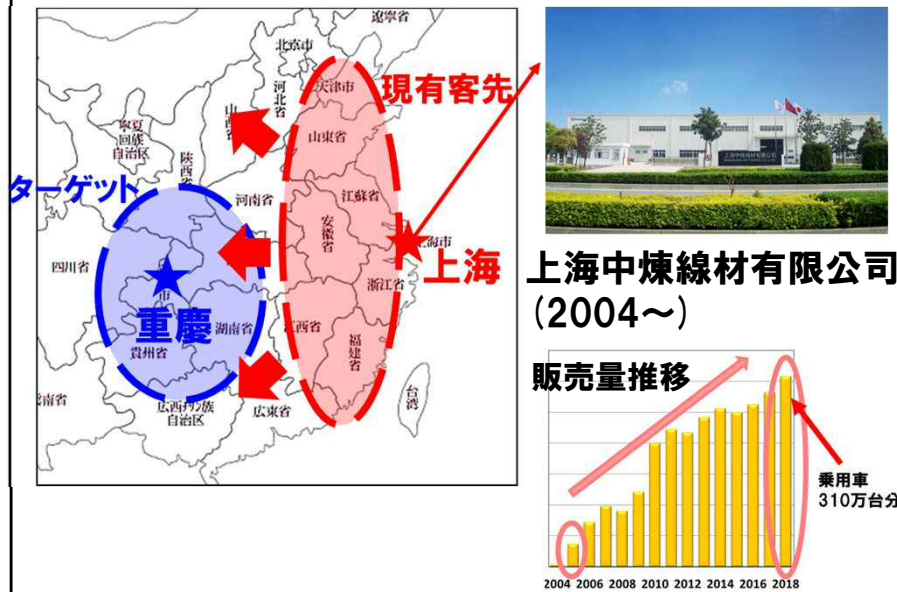
※グループ内取引を含む。
 ※日本からの輸出は含まず。

33. グローバル事業の展開-2

中国と欧州での高強度ばね鋼線ITW®の生産能力を拡張

中国 上海中煉社の第二工場設立

発展著しい内陸部での需要を取り込むため、**重慶**に第二工場を設立。
2020年からの操業開始を計画。



欧州 ネットレンチェコ社の拡張

新規顧客ニーズ対応のため、建屋・生産設備を増設。2019年末の操業開始を計画。

Neturen Czech s.r.o.	
所在地	チェコ共和国 Usti州
拡張エリア 敷地面積	約2,800m ²
導入ライン	ITW®生産設備



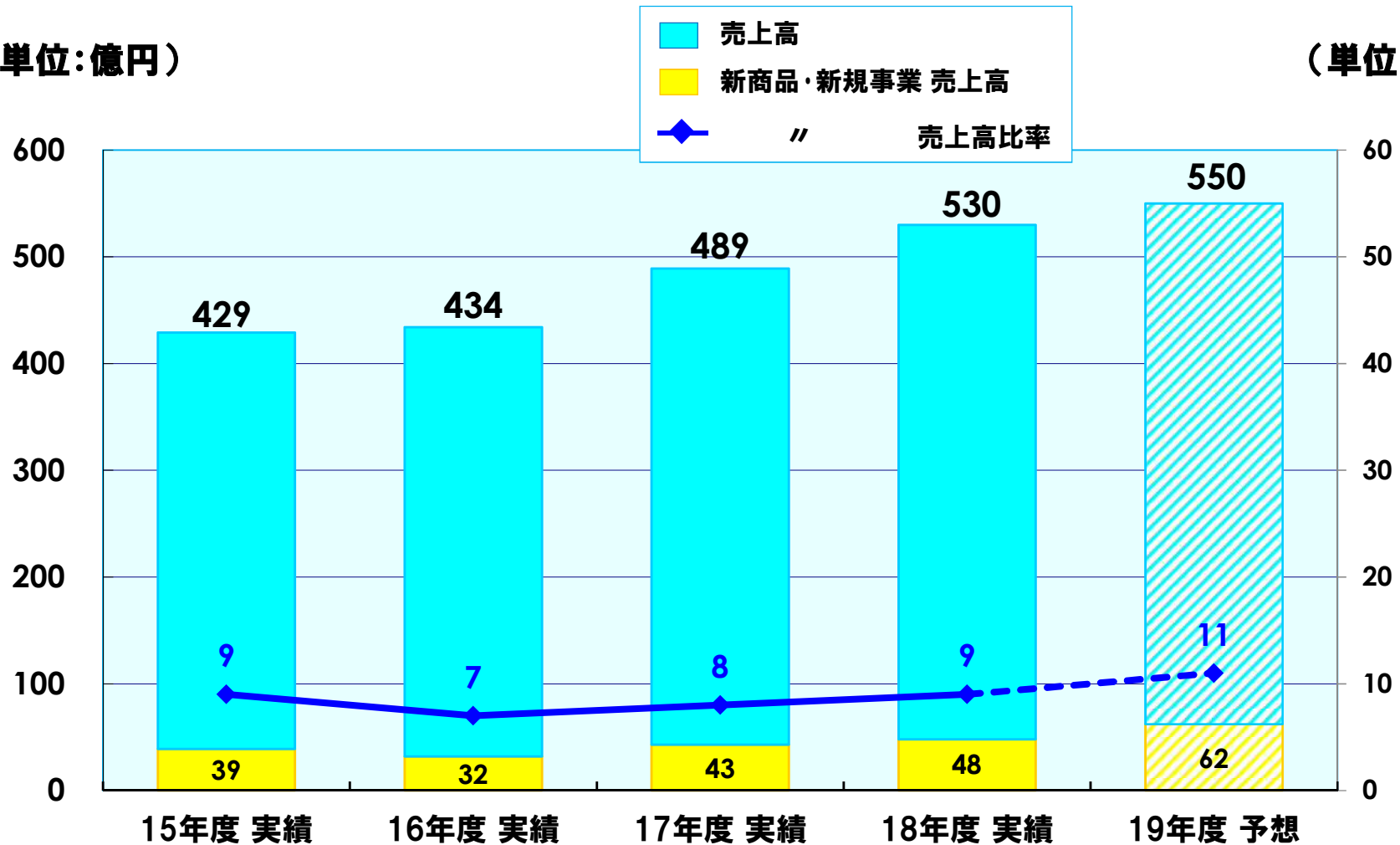
ネットレンチェコ (2014～)



34. 新商品・新規事業の売上高推移

(単位:億円)

(単位:%)





(注)当資料に記載の将来に関する予想数値は、公表時点において入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により開示した予想数値と異なる場合があります。